

序

循環器内科研修中の若手医師を読者対象とした書籍は数多くあります。一方で、研修中に現場で生じた疑問に対してすぐに答えを探すのはそれらの書籍からは難しい、という声もあります。そこで、研修中に自身の知りたい答えやヒントを短時間で探し出せ、求められる基本的な知識・技術も習得できる書籍を企画いたしました。

本書は、指導医が臨床現場でそばにいらなくても、実施すべき診療方針を自ら導き出せるように工夫しています。診療を進めていくうえで、何を確認すべきか、何に気をつけるべきか、何をしてはいけないのかなど、研修中の先生方がつまずきやすいことを解決できるように考慮しました。内容としては、厚生労働省が定める到達目標をふまえた、循環器内科のローテート中に習得すべき知識・技術を取り扱っています。同時に日本専門医機構の方針に沿った、循環器専門医研修のカリキュラムの内容をほぼ網羅しています。

本書は、循環器診療の基本を体系的に学べる3つの基本パートと、よくある悩み・疑問をシチュエーションごとに解説する実践パートの計4つのパートで構成されています。「基本パート」では、疾患・検査/診断・治療法の概説を通して、循環器診療の全体像が把握できます。「実践パート」では、日常臨床で遭遇することの多いケースを症状で取り上げており、実際の診療プロセスが学べます。書籍を通して共通見出しを設け、箇条書きで端的に示すことで、現場で読者の求める解説がどこにあるのか検索しやすくなっています。循環器内科は他の内科あるいは他の分野に比べて、画像の診かた、薬物の使い方、さらには観血的治療法の理解が研修するうえでのポイントになります。本書では多くの情報を互いにリンクさせてアプローチを考えていけるよう参照パートを明記していますので、ぜひご活用ください。

本書は将来、循環器内科の専門を目指す医師はもちろん、他科を目指す若手医師にとっても必要な知識がコンパクトに詰まっています。本書が「研修中に持っていくならこの1冊」と言っていただける必携書となれば企画した者として本望です。

2021年8月

東邦大学教授
池田隆徳